

●2006年度入学試験概要

一般選抜入学試験

選考日程と試験科目

全学部日程:2006年2月4日(土)

教科	科目
外国語(200点・100分)	英語Ⅰ／英語Ⅱ／リーディング／ライティング
国語(150点・75分)	国語総合／現代文／古典
地理歴史または公民または数学(150点・75分)	日本史B、世界史B、現代社会、政治・経済、数学Ⅰ／数学Ⅱ／数学A／数学B(数列およびベクトル)から1科目選択

理系型:2006年2月5日(日)

教科	科目
外国語(200点・100分)	英語Ⅰ／英語Ⅱ／リーディング／ライティング
理科(150点・75分)	物理Ⅰ／物理Ⅱ(力と運動および電気と磁気)、化学Ⅰ／化学Ⅱ、生物Ⅰ／生物Ⅱから1科目選択
数学(200点・100分)	数学Ⅰ／数学Ⅱ／数学Ⅲ／数学A／数学B(数列およびベクトル)／数学C(行列とその応用および式と曲線)

文系型:2006年2月8日(水)

教科	科目
外国語(200点・100分)	英語Ⅰ／英語Ⅱ／リーディング／ライティング
国語(150点・75分)	国語総合／現代文／古典
地理歴史または公民または数学(150点・75分)	日本史B、世界史B、政治・経済、数学Ⅰ／数学Ⅱ／数学A／数学B(数列およびベクトル)から1科目選択

大学入試センター試験を利用する入学試験

大学入試センター試験の出題教科・科目のうち下記に指定する教科・科目についての試験の成績により選抜します。個別学力検査等は課しません。

募集人数:15名

出願期間:2006年2月3日(金)～2006年2月21日(火)

教科	科目	配点	総点
外国語	英語	200点	700点
国語	国語	200点	
数学	① 数学Ⅰ、数学Ⅱ・数学Aから1科目 ② 数学Ⅱ、数学Ⅲ・数学Bから1科目	100点 100点	
地理歴史	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理Bから1科目	100点	
公民	現代社会、倫理、政治・経済から1科目	100点	700点
理科	① 物理Ⅰ、地学Ⅰから1科目 ② 化学Ⅰ、理科総合Aから1科目 ③ 生物Ⅰ、理科総合Bから1科目		

英語については、筆記試験(200点満点)とリスニングテスト(50点満点)の合計得点を200点満点に圧縮して合否判定に使用する。

地理歴史、公民、理科から2教科2科目以上を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

その他、アドミッションズオフィス方式による入学者選抜、推薦選抜入学試験(公募制)を実施いたします。

新しい学びの未来図を描く

文化情報学部がめざしているのは、先生と学生の関係が近くなる教育。少人数教育の中核となる「文化情報学実験・演習」「卒業研究」「コロキウム」「プロジェクト」では、専任教員全員が担当し、きめ細やかな指導を行います。

先輩と後輩が授業の場を共有 ●コロキウム

1、3、4年次生が同じグループに所属する発表、討論の場「コロキウム」。1年次生にとっては研究の進め方などを知る機会となり、4年次生は1年次生にも理解できるプレゼンテーション能力を磨く場になります。学年の異なる学生が集い、人間関係も深まる学問の場です。

複数の先生と共同研究 ●プロジェクト

専門分野が異なる複数の教員の指導により、希望する一つのテーマについて研究していきます。多様な考え方を持つ人と連携して、共同研究を行う喜びを知ることができます。



文化情報学部 担当教員・担当科目

福田 智子	文献解析
星 英仁	言語と脳科学
伊藤 紀子	言語行動論
金 明哲	計量言語学
片山 徹	意思決定の数理
川 廣吉	現象と数理Ⅰ
北尾 謙治	アカデミックリーディング
村上 征勝	文化情報学
阪田 真己子	身体論
沈 力	言語解析応用
重定 南奈子	数理モデル
下嶋 篤	映像解析
菅野 道夫	感性情報解析
杉本 裕二	ヒューマンコンピュータインタラクション
杉尾 武志	人間の情報処理
鉤柄 俊夫	文化財解析
田口 哲也	比較文化論
高橋 美都	音楽解析
津村 宏臣	行動計量学
浦部 治一郎	現象と数理Ⅱ
宿久 洋	定性的データ分析
山内 信幸	言語解析入門
矢野 環	伝統文化論

▼同志社大学 文化情報学部

同志社大学 文化情報学部事務室 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
TEL 0774-65-7610 FAX 0774-65-7618
MAIL jt-bnkjm@mail.doshisha.ac.jp

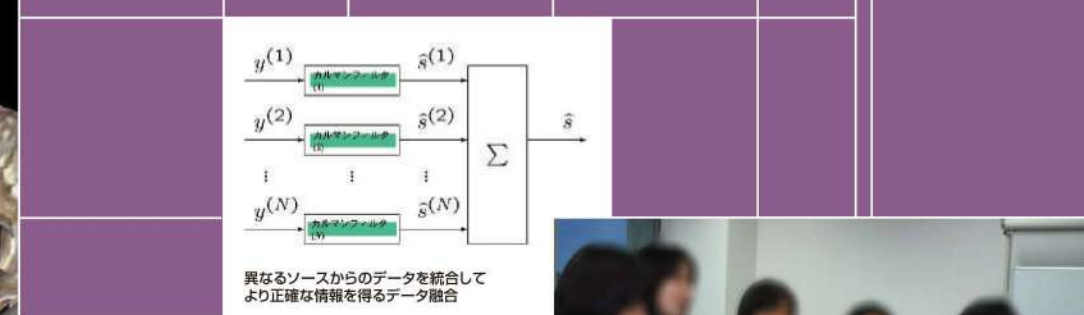
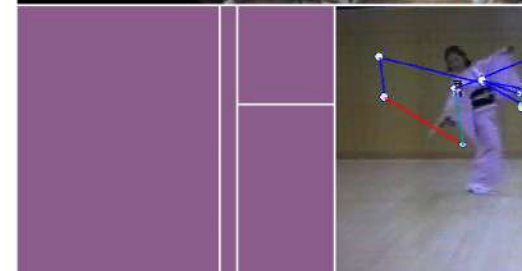
<http://www.cis.doshisha.ac.jp/>

京田辺キャンパスへの主な交通案内と所要時間の目安

大阪、梅田、北新地から	JR環状線「大阪」から「京橋」へ約10分→JR学研都市線で「同志社前」へ約40分(京橋～京田辺間急行利用)→徒歩約10分。または、JR東西線「北新地」から「同志社前」へ約45分→徒歩約10分。
京都から	近鉄京都線「京都」から「興戸」へ約25分(京都～新田辺間急行利用)→徒歩約15分。
奈良から	近鉄奈良線「西大寺」乗りかえ、近鉄京都線「興戸」へ約25分→徒歩約15分。



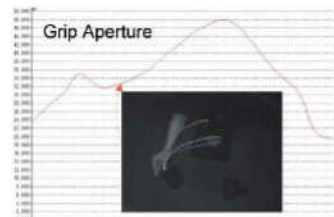
Faculty of Culture and Information Science



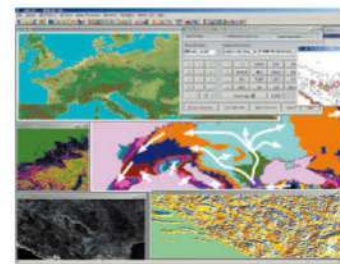
相手のしぐさからその人が考えていることが分かるのはなぜでしょう？
たとえば眼や手の動きのデータから、認知メカニズムについて明らかにすることができます。
しぐさと認知から、人間について考えてみませんか。



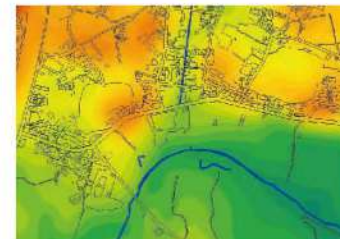
コミュニケーション場面における視線の動き



2台のカメラから撮影した手の運動を解析して、親指と人差し指の間の距離の時間変化をプロットした図



トルコからの文化拡散をGISでシミュレートした画像



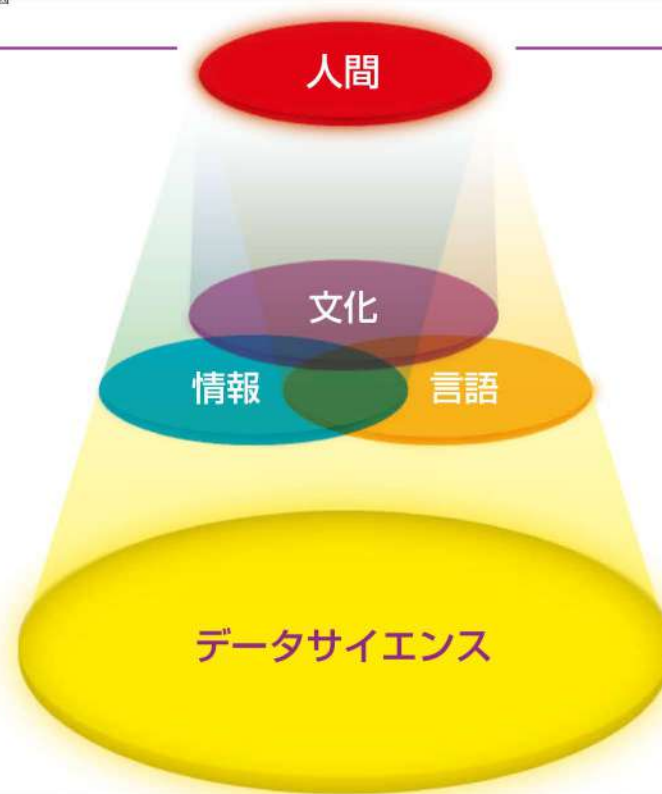
人類の環境適応特性から回帰式を作成して作成した集落分布Predictive Modelの画像

文化はイキモノ!?すべての文化や現象は、時空間的な生態のルールを持っています。現象の痕跡を追跡、パターンを発見、構造を分析、そのルールを解読してシミュレートすると、現象の多様性や相互作用環が、まるで生きているかのようにビビッドに浮かび上がります。



文化とデータサイエンスのコラボレーション

文化情報学部は、人間の様々な営みの結果である「文化」を適切に情報分析することで、客観的に文化を見直す、新たな学問の場です。
人文・社会科学系のテーマに対して、「データサイエンス」という自然科学的な研究手法を駆使し文理が融合した新しい発見を生み出します。
文化情報学部では文理の壁をこえた柔軟な発想と広い視野を持った人材の育成をめざしています。



研究を通じて身につく「文化」に対する新しい見方とコンピュータを使った情報分析能力は、これからの社会で最も期待される要素です。

文化に対する新しい見方を活かす

- 新聞社・テレビなどのマスコミ関係 ●博物館・埋蔵文化財センターなどの学芸機関
- 国際的な活動をおこなう政府機関など

高度なデータ分析能力を活かす

- 商社・銀行などの情報分析部門 ●多量のデータを元に業務をおこなう官公庁
- シンクタンクや社会調査関連のコンサルティング

データサイエンスの手法を修得した上でさらなる研究をめざす

- 大学院進学など

資格取得の要望にも対応します

- 中学校・高等学校の教育職員免許「数学・情報（高校のみ）」
- 博物館学芸員 ●図書館司書 ●社会調査士

みやび 雅のデータサイエンス

日本の伝統文化の中心、京都。
この地で花開いた公家文化は、どのように生まれ、今日まで受け継がれてきたのでしょうか。
その謎を、和歌連歌、茶華香道、能狂言などを対象にして、データサイエンスによって解明していきます。



ことば・コトバ・言葉

その構造と運用がデータサイエンスによって初めて解き明かされる！
その知見と成果をコンピュータシステムに適用することによって、対話型問題解決支援システムの構築に取り組んでいます。

